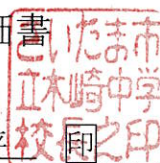


<様式1>

令和3年度 さいたま市立木崎中学校 自己評価書



校長 稲田正平

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) GIGAスクール構想に基づいた授業の構築を図り、対面の一斉授業と一人一台のタブレットPCを活用した授業を展開し、確かな学力の育成を図る。
- (2) 生徒の豊かな心をはぐくむため、いじめ・不登校ゼロを目指し、生徒同士、生徒と教職員が積極的に関わり豊かな人間関係の構築を図る。
- (3) 生徒が安心安全に生活できるよう学校保健、安全指導の充実を図る。
- (4) 教職員の働き方改革への意識向上と在校時間の管理をすることでワーク・ライフ・バランスの充実を図る。

2 評価結果について

- ・「ICTを効果的に活用した学習指導の充実を図ることができた」について肯定的な回答をした教職員は88%を超えている。また、「学校での授業の内容を理解しているか」について「思う」と肯定的な回答をした生徒は昨年度より5.6ポイント、「きめ細かな学習支援を行っている」について肯定的な回答をした保護者は昨年度より7.5ポイント上昇している。ICTを積極的に活用し、生徒の授業に対する意欲を高める工夫が展開され確かな学力の育成の一助になったと考える。
- ・「生徒から連絡・相談されたことに適切に対応している」について肯定的な回答をした生徒は昨年度より1.3ポイント、保護者は3.0ポイント上昇している。教職員は一人ひとりの生徒を大切に常に見守り、見届けていることで豊かな人間関係を構築できてきていると考える。
- ・「感染症対策に係る生徒への指導は十分に行われていたか」について肯定的な回答をした教職員は92%を超えている。日頃から感染防止対策の意識を高め指導してきたことが表れているが、体温記録票の提出が徹底できていないクラス等もあるため引き続き課題である。
- ・教職員の働き方改革については、ノー残業デーの設定、出張先からの直帰を励行してきたことで早期帰宅を意識させ実行することは昨年度よりもできたが、長時間在校については課題があるので次年度への重点とする。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・各教科「好き、どちらかといえば好き」の回答割合を前年度より上昇させるため、実生活や実社会とのつながりに気付かせるなどの動機づけを意識した授業の工夫改善を行う。各教科において市平均値を上回ることができるよう計画的に教科会を実施するなど教科指導の更なる充実を図る。
- ・学校評価における「木崎中が好き」の項目で生徒、保護者のどちらについても前年度よりポイントの上昇を目指す。そのためには生徒、保護者、教職員が元気にあいさつを交わすなど積極的にコミュニケーションをとることにより、信頼関係を築き生徒にとって安心安全な学校を目指す。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。